

# 公共牧場における 飼料用トウモロコシ栽培について

畜産研究所

本県の公共牧場は全国第3位の面積を誇りますが、肉用牛の飼養形態が「放牧」から「舎飼」に変化し、利用率は年々低下しています。そこで、公共牧場を飼料生産基地として活用するため、高標高(500m程度)での飼料用トウモロコシの適品種を検討したので紹介します。

## 試験地及び品種

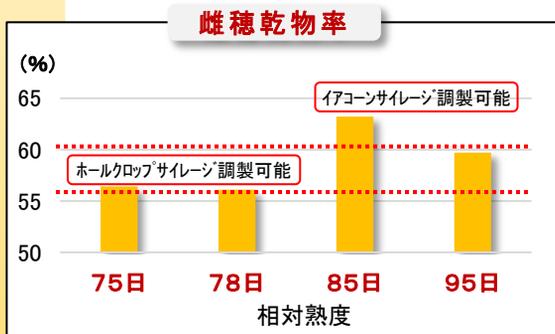
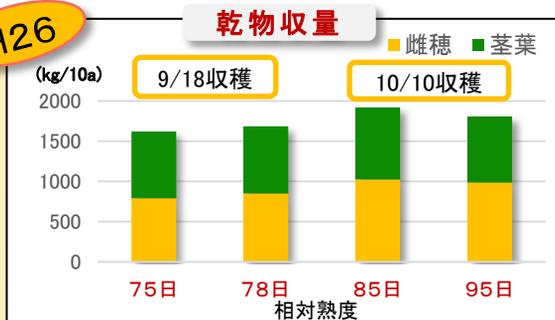
項目	内容
試験圃場	湯の平牧場(十和田市) 標高476m 北緯40.36度
播種期	平成26年5月20日、平成27年5月27日
使用品種及び 栽植本数	極早生品種(相対熟度(RM)100日未満): 8,080本/10a 早生品種(相対熟度(RM)100~110日): 7,017本/10a

相対熟度：発芽から収穫期までの日数で示される、相対的な早晩性の単位



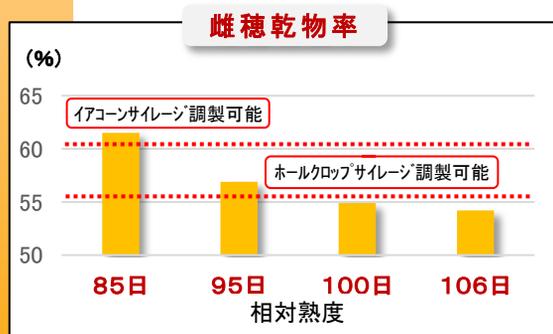
## 結果

H26



イアコン：トウモロコシの雌穂

H27



ホールクロップ刈取適期：雌穂乾物率55%程度を目安  
イアコン刈取適期：雌穂乾物率60%程度を目安

## 高標高における適品種

高標高(500m程度)における  
利用目的別の相対熟度(RM)

### 利用目的

イアコン  
サイレージ

ホールクロップ  
サイレージ

### 相対熟度

95日以下の品種  
(雌穂乾物率 60%程度)

106日以下の品種  
(雌穂乾物率 55%程度)



お問い合わせ

畜産研究所 酪農飼料環境部 (TEL0175-64-2790)